

円滑な経営継承による地域農業の発展

～未来につなぐ農野牛農業～

十勝農業改良普及センター十勝東部支所 地域第二係

1 活動対象及び概要

★豊頃町農野牛地域(9戸)

- ・上農野牛地域は酪農経営が主体
- ・下農野牛地域は畑作と肉牛

【対象】

- ・畑作物の高位安定生産技術の定着「適正施肥の実施」

対象：畑作物栽培農家7戸

- ・後継者の資質向上「目標管理技術の向上」

対象：酪農後継者2戸3名

経営主の平均年齢：45.2歳

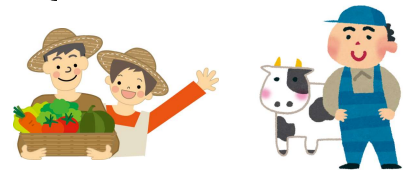
酪農専業：2戸

酪農+畑作：1戸

肉牛+畑作：2戸

畑作専業：3戸

園芸+畑作：1戸



2 背景・ねらい

適正施肥の実践

近年、生産資材が高騰してきている。施肥量の見直しや有機物を上手に使いたい。



しかし

施肥量の見直しは不安だよ

そこで

適正施肥実施に向けた不安の解消が必要

目標管理技術の向上

今後5年以内に経営継承を予定している後継者がいる



9戸中4戸に後継者
うち2戸が酪農経営

経営継承
に向けて

生産技術の向上と経営管理能力の向上
が必要

3 活動の経過

適正施肥の実践



適正施肥の提案

- ・令和4年度 適正施肥の実証ほを設置。
- ・土壌分析値および有機物に基づく施肥を提案。



現地研修会

I氏：うちも来年から適正施肥にしてみようかな。



減肥試験事例の紹介(JA青年部取組)

適正施肥に伴う不安の解消を図る

目標管理技術の向上



乳牛飼養管理技術

- ・毎月の乳牛モニタリングから、過密時のコンディション悪化を確認
→改善に向け取り組み開始



経営管理技術



収量UPに向け、酸度矯正に取り組もう！

粗飼料生産技術

将来経営する上で必要な知識・技術の習得

4 活動の成果

適正施肥の実践

【適正施肥を提案した結果・・・】



3戸で実施

↓

来年も検討

農業者名	作物	適正施肥の実施内容
D	小豆	鶏糞の利用と基肥の半減(青年部に取り組)
E	大豆	前作物(てんさい)を考慮した基肥窒素の減肥
H	小豆	土壌分析値に基づく施肥(基肥の減肥)

【現地研修会を行った結果・・・】



「知る」 「見る」 「する」

体験形式の研修会で
適正施肥への理解が深まった!



I氏「やってみてどう？」
D氏「生育は変わらないよ」
→直接、感想が聞けた




I氏
「来年、豆類全て
で適正施肥に取り
組みたい!!」

新規取組者の増加

目標管理技術の向上

【乳牛飼養管理】 取組事例：B農家



牛床に対する頭数割合
R4年12月 93% (密)

↓


R5年12月 74% (適)

過密で育成牛の食い込みが下がると、分娩後の調子も悪い。育成期が大事だと思い密度を気を付けるようにしたよ。

31点(R4)→36点(R5)/40点満点

【粗飼料生産】 取組事例：A農家

石灰資材は用意できたけど、どの畑に入れたらよいの？




植生ランク	牧草割合
5	80%以上
4	70~50%
3	50~30%
2.5	30~20%
2	10~20%
1	0~10%

植生調査 → 植生ランクの良い圃場に優先的に石灰資材を投入

22点(R4)→24点(R5)/30点満点

【経営管理能力】 延べ参加人数 10人



視察 研修会

自分が経営主となった時の、雇用の参考となった!


21点(R4)→25点(R5)/30点満点

飼養管理技術向上

経営管理技術向上

粗飼料生産技術向上

成長!



習熟度測定 合計

R4 74点→R5 85点にアップ!!

5 今後の対応

- (1) 適正施肥の定着に向けた実証および提案。
- (2) 自家の課題解決に取り組む。また、草地マップの充実で安定した粗飼料確保につなげる。
- (3) 後継者の資質向上のための研修会や学習会の開催を引き続き実施する。